


 大地申
 第13号

「駅業務執行体制について」に関する基本交渉開催！その3

5. 新幹線新任駅長コースや新幹線に関わる各種研修等を集中的に受講し、業務習熟度が判断できる指導担当者を育成すること。

回答：指導担当者については現場長が決定することとなる。

《交渉議事抜粋》

組：駅の特情を知り、記録簿に沿って指導できる社員が少ない。指導出来る人を育成する必要がある。

会：輸送業務を担う人材育成はこれまでと変わらず取り組んでいく。

組：見習い記録簿が定着していないし、過渡期である。危機感もある。教える立場になってもどう指導するのか統一感もない。運転職場の指導員のような人材を育成すべきだ。

会：指導担当者を特定する考えはない。必要な教育項目は誰が教えても変わらないようにしていく。

組：各駅のホーム業務のプロを育成していただきたい。

会：社員の配置状況があるので一概にできないが、社会人採用主体でやっていく。

6. 各ホーム事務室に運転取扱い業務を明確にし、業務区分を表記すること。

回答：関係社員に必要な周知を行っていく考えである。

《交渉議事抜粋》

組：営業職が出来ることと出来ないことを明確にさせていただき、ホーム事務室に表記することはできないか？

会：出来ないことは教育しないこと。輸送主任は分かっていることかと思う。掲出ありきではない。運適業務をやることであってはならない。

組：輸送指令とのやり取りはこれまででしたことがない。万が一指令からの指示で営業職の社員に運適業務が指示されたらどうか？

会：やり方はいろいろある。通達上には明確にしている。やってはいけないことは明確にすべきだが、表記することだけをやればいいのかということだけではない。

組：通達を出すだけでなく、表記することを支社が指導すべきだ。

会：必ずしも表記しなくてはならないということではない。

組：施策がすぐに始まる。再度、通達内容を現場周知していただきたい。

会：事故に繋がってはいけない。資格がないのにやってはいけない。周知していく。

7. 「駅業務執行体制の見直し」に伴い、列車防護スイッチが扱われた際、早期復旧のため警報音をホーム上に鳴動させるよう改良すること。

回答：関係個所と調整の上、必要なものについては整備していく考えである。

《交渉議事抜粋》

組：今施策において設備の改良はするの？

会：具体的な事は決まっていない。駅で必要なものは管理者に言っていただきたい。予算をつけてやっていく。

組：音が鳴らない理由は？お客さまがいるからということもあるかもしれないが、安全サイドに改良すべきだ。

会：経緯は分からない。状況は把握していく。

組：安全面の要求なども今後出していく。ハード面の改善も考えていただきたい。

会：約束は出来ないが、安全上の物はやっていく。

施策の検証を職場から創り出し、安全で働きがいのある職場環境を構築しよう！